

基本理念

（仮）次世代へつなぐ富山の「食」・「農」・「里」

10年後のめざす姿

総合計画素案より

富山県農業の生産性が高まり、多くの県産品が国内外で販売されることにより、収益力の高い、担い手に選ばれる魅力的な産業となっています

主要施策	施策の方向性	具体的な取組み（例）	目標指標（例）
1 農業の人材確保・育成と生産性向上	稼げる農業の実現	・稼げる農業の実現に向けた取組みを支援 ・新たな経営モデルの提示	○農業産出額 ○販売金額○○千万円以上の経営体数 ○1人あたりの農業所得○百万円以上の人数
	地域農業を支える担い手の確保・育成	・地域計画のブラッシュアップと実現に向けた支援 ・新規就農者の確保・育成（雇用就農、独立・自営就農） ・地域ぐるみでの新規就農者受入体制づくりを支援 ・性別や年齢に関わらず活躍できる職場づくりの推進 ・第三者継承・参入を含めた企業との連携の推進 ・集落営農の広域連携 ・農業を学ぶ機会の拡充	○担い手への農地集積率 ○新規就農者数
	多様な農業人材の活躍	・農業支援サービス事業体の育成や短時間労働の活用 ・他産業との人材シェア ・農福連携等の推進 ・農業の魅力発信	○スポットワーク活用数 ○農業支援サービス事業体数（累計） ○農福連携等取組主体数（農林水産業経営体等）
	生産性向上に向けた技術導入と生産基盤の強化	・スマート農業技術や農業DXの活用促進とそれに応じた基盤整備の推進 ・スマート農業人材の育成に向けた体制整備	○スマート農業や水田汎用化に対応した基盤整備面積 ・平野部での大区画ほ場整備面積（1ha程度以上） ・中山間地での省力化に資する整備面積 ○スマート農業の普及状況
2 持続可能な農業生産	競争力ある農産物の生産 ・温暖化に対応した戦略的な米産地への転換 ・園芸作物の生産力強化・拡大 ・畜産物の生産基盤の強化・拡大	・「富富富」などの高温耐性品種の生産拡大 ・水田フル活用による非主食用米、大麦、大豆等の生産推進 ・園芸生産に適した基盤整備や企業と連携した大規模園芸経営体の育成 ・稲発酵粗飼料の拡大や耕畜連携により地域飼料を活用し畜産経営コストの削減	○高温耐性品種の作付面積 ○米産出額 ○園芸産出額 ○新規園芸取組生産者数 ○畜産産出額 ○飼料自給率
	人と環境にやさしい農業の普及・拡大	・化学肥料・農薬の使用低減や有機農業の推進 ・堆肥活用等、地域と連携した循環型農業の推進 ・とやまGAPの普及・定着促進	○有機農業の取組面積 ○特別栽培農産物の栽培面積 ○とやまみどり認定者数
3 食のとやまブランドの推進による消費・販路・輸出拡大	安全な食の提供と付加価値の向上	・マーケットインに対応する生産者、食品産業、流通のプラットフォームや県内サプライチェーンの構築 ・地域資源を活用した高付加価値な商品やサービスの創出・提供を促進 ・HACCPの普及・定着促進 ・食品の安全性の確保を図るため、食の安全の情報発信、衛生管理の徹底、適正表示の指導	○食のイメージ調査 例）全国で1年間に県産品を食べた人の割合 ○食品表示実態調査等における適正店舗割合
	インバウンド・輸出による販売拡大	・インバウンドによる食関連消費の拡大 ・「フラッグシップ輸出産地」を対象に輸出拡大と連動した生産拡大モデルの構築 ・伏木富山港や富山空港を活用した最適な輸出ルートの確立	○県産農林水産物の輸出額
4 ワクワクする農山漁村の持続的な発展と都市との交流	農村コミュニティの維持・強化と関係人口の創出	・農村RMOを核とした多様な人材による農村コミュニティの維持・強化 ・関係人口の創出や二地域居住の促進 ・援農等の地域外の人材や企業等の共同活動への参画といった関係人口の拡大・深化により、持続可能な農村地域の構築 ・食や歴史、景観など地域資源の発掘とブラッシュアップや農泊の推進による収益向上	○農林漁業体験者数 ○農泊ネットワーク地域数
	中山間地域の活性化	・農業生産活動の継続を図り、地域の特性に合わせた農産物の生産や販路開拓を支援 ・営農を続けて守るべき農地と粗放的管理を行う農地を明確化し、労力を集中投資する土地利用を推進 ・効果的な鳥獣被害防止対策の推進（鳥獣捕獲のDX化など）とジビュリ活用	○中山間地域等直接支払協定締結（集落数・シェア） ○鳥獣による農作物被害額（対策の成果）
5 災害に強い農業用施設の整備	災害に強い農業用施設の整備	・最新技術を活用して農業水利施設の予防保全を加速化 ・気候変動に対応した生産基盤の防災・減災機能の維持・強化 ・農業水利施設等の情報を共有できるシステムの構築により、平時の的確な施設点検や災害時の迅速な情報共有が行える体制を整備	○地域における農業水利施設等の保全体制が構築された割合 ○防災重点ため池の整備に向けた評価完了数 ○災害時における被害状況共有システムの整備割合
	安全・安心な暮らしの確保	・農業用水路への転落事故防止のため、ワークショップで効果的な対策の検討や安全施設の整備推進 ・多面的機能の維持が維持発展されるよう、地域ぐるみによる農用地、農業用水の保全管理	○農業用水路の転落事故死亡件数 ○農村環境保全活動の取組み（集落数・シェア）
6 消費者が「生産」を支える機運の醸成	「買って食べて」応援する行動変容の促進	・合理的な価格形成への理解醸成、農業の持つ社会的意義の周知 ・小さい頃から農業に親しむ教育や継続的な経験の提供 ・地産地消や食品ロス対策も含めた食育の推進	○コスト上昇分を価格に反映すべきとする人の割合 ○地元産の農産物を積極的に購入する人の割合